はじみていやーさい！ 中核市なは

平成25年4月から
那覇市は中核市へ

広報なは 市民の友

第742号 毎月1回発行
2012年(平成24年)
11月

発行●那覇市　編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市上之屋1丁目2番1号
☎867-0111 ●印刷 ㈱近代美術
●配布 那覇市シルバー人材センター

市の人口と世帯
※（ ）内はうち外国人
2012（平成24）年9月末現在

総人口	320,957（2,097）
男	154,843（1,063）
女	166,114（1,034）
世帯数	139,965（1,198）

住民基本台帳人口の内訳（外国人を除く）

レールが結ぶ人とまち

市民の通勤や通学の足として、また観光客の移動手段としても親しまれているゆいレール。

かわいい姿でゆっくりと市内を走り、高い車窓からはビルが建ち並ぶ市街地や屋上緑化の街並み、水鳥の住む漫湖や緑豊かな末吉の森など、「なは」の色々な姿を見せてくれます。

ゆいレールは、地球と人に優しい新たな交通体系の柱として、今日も多くの人々を乗せ、市内を行き来しています。

みんなで支えるゆいレール。これからも「なは」のまちを感じながら、みんなで利用しましょう。

市民が支えるゆいレール

那覇市は、沖縄都市モノレール株式会社（以下「モノレール社」）の約34%の株を保有する大きな株主であることをご存知でしょうか。

ゆいレールは、那覇市および沖縄県、沖縄振興開発金融公庫、企業などが出資を行い、平成15年8月に開業しました。
開業後は第3セクターであるモノレール社が運営していますが、本市もいろいろな面からサポートを続けています。

資金面では「那覇市都市モノレール整備基金条例」を制定して基金を積み立て、貸付やゆいレールの車両購入などへの補助を行っています。

私たちの豊かな暮らしの実現に向け、大切な役割を担うゆいレールは、今ではすっかり市民･県民の足として定着しています。1日平均約37,000人が利用し、安定的な運営を続けており、初期設備費用の借り入れ完済まであと26年程となっています。さらなるまちの発展に向け、モノレール社はもとより、那覇市や沖縄県も一体となって、利用促進に取り組んでいます。

ゆいレールの役割

交通渋滞の緩和

陸上交通の全てを道路に依存し、車中心の生活をしてきた沖縄県。その中でも、県内の人口が集中する本市においては、交通渋滞が著しく、排気ガスや騒音、交通事故など都市環境の悪化を招いていることが大きな問題となっていました。

ゆいレールは、交通渋滞の緩和と定時定速の確保による公共輸送機関の利便性向上を図ることを目的として整備されました。今後、首里石嶺町を通り浦添市へのモノレール延長事業を進めるとともに、バスとの接続や、自動車からのスムーズな乗り変えができる施設整備など、新しい交通体系の構築に向けた取り組みを進めていきます。

おもろまち駅とバス停を結節した交通広場

まちの発展

ゆいレールは、駅を中心とするまちの発展にもつながっています。駅周辺には、本市の行う再開発事業のほか、商業施設やホテル、マンションなどが次々と進出し、まちの活性化が進んでいます。

また、観光客にとって魅力的な交通手段となっており、空港からの利用者が多く、市内での宿泊、観光にもつながっています。

地球環境にやさしい

ゆいレール利用者のアンケートからは約3割（約11,000人）が自動車などからの転換という結果が出ています。大気汚染の原因となる窒素酸化物や地球温暖化を引き起こす二酸化炭素などの削減にもつながっています。

いい運動に

通勤手段として毎日利用しています。ゆいレールは時間が正確で本数も多いのでとても利用しやすく、休日も車を置いてモノレールで出かけています。家から駅まで少し離れてはいますが、これがいい運動にもなり、一石二鳥です♪

乗車時間を有効活用

通学にも遊びにも、ゆいレールを利用しています。早いし、待ち時間も少なくて便利。乗車時間は英単語などを覚えている友人たちもいます。僕たちは音楽を聴いてリラックスタイムにしています(笑)

正確で速い

時間に正確だし、混まずに短い時間で通勤できるのでとてもありがたいです。駐車料金やガソリン代も節約できて、時間にも財布にも優しい通勤手段です。

お問い合わせ　都市計画課☎951-3246

協働さん いらっしゃい！

市民・事業者・行政が支え合う協働のまちづくりに取り組む団体、個人を紹介します。

第21回
那覇地区こども110番の家連絡協議会

お問い合わせ
まちづくり協働推進課
☎861-3846

地域の力で子どもを守る

第21回は、那覇地区こども110番の家連絡協議会会長の大山盛稔（おおやませいしん）さんです。

那覇地区こども110番の家連絡協議会
会長　大山盛稔さん

Q「こども110番の家」とは？

「こども110番の家」は、子どもが誘拐や声かけ、ひったくり、DVなどから逃れるために、通学路周辺の民家やコンビニ、飲食店などにかけ込んできた時、一時避難場所として保護し、警察や学校、家庭などへ連絡してもらう制度のことです。

警察署と私達連絡協議会が委嘱し、現在、県内で721ヶ所、市内では112ヶ所の「こどもの家110番」が、子どもたちの安心、安全のため活動中です。

Q活動内容はどのようなものですか？

那覇市教育委員会が推進する、「早くお家へ帰ろう！GO家（ゴーヤ）運動」に賛同し、那覇地区深夜スーパー等防犯連絡協議会と協力して、深夜スーパーなどに、ポスターを貼ったり、のぼりをたてたり、店舗によっては21時45分になると店内放送が流れ、子どもたちに早めの帰宅を呼びかけています。

また、道路やアパートの駐車場などが暗い場合に、自治会やアパートの所有者に外灯の設置をお願いする「1戸1灯運動」も行っています。

いくつかの学校では、「こども110番の家」として委嘱された場所が把握できるような安全マップを作製しています。郵便局では、集配バイクに「走るこども110番」のステッカーを貼るなど、広く「こども110番の家」の周知活動に力を入れています。

Q自分の身を守る為に心がけてほしいことは何ですか？

学生がバス停で待っていると、自転車からナイフで切りつけられる事件があるなど、日常生活の中で誰にでも突然このような事件や事故がふりかかる可能性があるということを常に意識して過ごすことが大切です。

近頃は、携帯電話で通話しながら歩いている学生をみかけることがありますが、不審な人や車を見過ごしてしまうかもしれません。夜は早めに帰宅する、車両に背を向けないようにする、人通りが少なく、外灯がない場所に一人で出向かないようにするなど普段から心がける必要があります。

協働大使として、交流会などを通して、さまざまな業種の方々に広く「こども110番の家」の目的や意義を知ってもらい、1つでも多く「こども110番の家」を増やし、事件、事故がない安心･安全な地域社会づくりをこれからも目指したいと思います。

お問い合わせ
那覇市与儀1丁目2番9号
那覇警察署☎836-0110

「いい暮らしより 楽しい暮らしを」～人と人とが支えあう協働により、心の豊かさを感じるまちを目指して～